リップルマークと波打ち際

　砂が水や風などで動かされると，規則的な波形を作る．この波形で，小さなサイズの波形をリップル（Ripple）という．表面の模様（地表についた波模様の凸凹）を特にリップルマーク（Ripple Marks）と呼ぶことがある．
写真左は波の作用によってできたリップルマークである．写真中央付近にある盛り上がったピッチャーマウンド様の砂盛りとすり鉢状の穴は、ゴカイの巣である。
　リップルマークは、干潟散策をしていると、よく観察できる干潟上の模様である。
　写真右は、波打ち際の光景である。しかし、撮影時には潮が引いており、満潮時にはちょうど砂浜の上に見られる黒い帯のようになっている海藻付近まで、海になる。
干潟歩きをすると、生き物の歩いた痕（あと）が残っていたり、写真の様な、波など自然の作用によってできた模様などが残されている。
　これは、何の模様だろうか、と観察しながら歩くのも面白い。